

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所 利用報告書

平成 29年 7月 7日

貴所を利用して行った実習・セミナーが終了しましたので報告します。

実習名 (セミナー名)	東邦大学理学部生物学科の学部2年生と対象とした野外生態学実習I					
利用期間	自平成 29年 7月 3日 ~ 至平成 29年 7月 7日					
	区分	教員	大学院生	学部学生	その他	備考
利用者	人数	1	2	11		
うち 受講者	人数			11		
<p>1. 実習・セミナーの内容について、簡潔にお書きください。</p> <p>日本の生物相が豊かな要因の1つとして「人間による自然の持続的かつ賢明な利用」があったということをふまえて、半自然草原の重要性や、人の介入による植生への効果について学ぶ。</p> <p>根子岳登山では半自然草原と自然草原の違いや、標高傾度に伴う植生変化について学ぶ。林冠観測タワーを利用して明るいところの葉（陽葉）と暗いところの葉（陰葉）を比較し、植物の光環境に応じた順化について学ぶ。</p> <p>2. 成果をお書きください。（可能であれば写真なども該当シートに添付してください。）</p> <p>優占種であるワラビを取ることで、植物種数が増加する傾向が見られ、人の利用が植生に与える影響について学ぶことができた。</p> <p>林冠観測タワーを利用して陽葉と陰葉を採集し、葉面積比を算出した。陽葉は陰葉に比べて厚い葉であり、植物の光利用に応じた構造変化について学ぶことができた。</p> <p>根子岳登山では、標高傾度に伴う植生変化を学んでもらえた。</p> <p>3. 当所をご利用いただいた感想、ご要望などご自由にお書きください。</p> <p>宿泊場所、フィールド、実験室が隣接しているので、大変便利です。また人為操作が植生に及ぼす効果や植生遷移を考えるうえで最適の場だと思います。根子岳登山の日にはマイクロバスを出して頂いたり、林冠観測タワーを利用させて頂いたりしたおかげで、フィールドにもバリエーションを付けられて、充実した実習にすることができました。</p> <p>4. 当所では、「教育共同利用拠点」としての実習等の利用状況・概要をホームページ等で公開しています。上記1、2、3で非公開を希望される内容がありましたらお知らせください。</p>						

担当教員 下野 綾子

所属 東邦大学 理学部 生物学科

職名 講師

当所では、ホームページ等で実習等の成果報告を行っています。ホームページ上での掲載可能な写真を、コメントと共に頂けませんか？皆さんの充実した実習等の報告をお待ちしております。

(以下のスペースに自由に写真をはりつけ、コメントをつけてください。)

根子岳にて記念撮影



林冠観測タワーでの葉の採集



